財務状況報告

日本工業大学 通信

NIPPON INSTITUTE OF TECHNOLOGY

第262号

編集・発行
日本工業大学
総合企画室
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
☎(0480)34−4111(代)

https://www.nit.ac.jp

令和8年（2026年）11月1日発行

秋季学位記授与式・入学式

新しい時代の技術者として期待

9月20日午前、秋季学位記授与式を学友会館において挙行した。学部生59名が卒業、大学院工学研究科博士前期課程2名が修了した。

竹内貞雄学長は告辞として「変化が激しく、予測不可能な時代において重要なのは知識そのものではなく『学び続ける力』であり、その原動力となるのが好奇心である。本学の『実工学』で培った課題解決力や協働力に自信を持ち、好奇心を保ちながら自ら学び続け、新しい時代を切り拓く技術者、社会人として活躍してほしい」と期待した。

柳澤章理事長は「皆さんが人として成長していくためには2つの研鑽が重要と考える。一つは日々の仕事を成長のための学びの対象と捉えること。もう一つは、仕事以外でどのような経験を積んでいくかということである。こうして人生に対する感度を高め、人間力を向上させることで大きく成長し、豊かな人生を送っていただきたい」と祝辞を述べた。



竹内学長から修了生代表に学位記を授与

午後には学長室において秋季入学式が挙行され、大学院工学研究科博士前期課程1名、後期課程2名が出席した。入学生たちは竹内学長、吉野教務部長と懇談し、今後の研究内容や目標について語った。

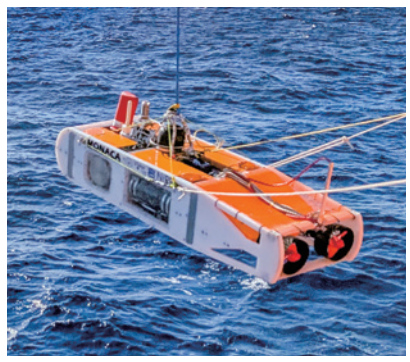
南極地域観測隊参加と極地での挑戦

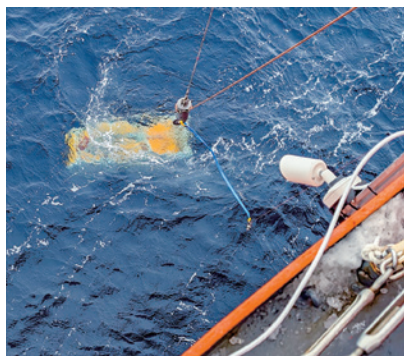
山縣准教授体験記［第3回］ いよいよ観測開始も、思わぬ展開に!

3月15日の投入までに、67次観測隊初の運用を控えた自律航行型水中ロボット「MONACA」は広報活動などへの協力も行いつつ、海中投入前に入念にチェックが行われた。前回66次では無索化運用（自律制御）まで5回程度の有索運用（通信ケーブル付きテスト）が行われていたが、今回67次ではそれほど時間的な余裕がなかった。そこで、少ない運用でどこまでテストをやり切って信頼性を確保するかという、これまでとは違う緊張を感じていた。

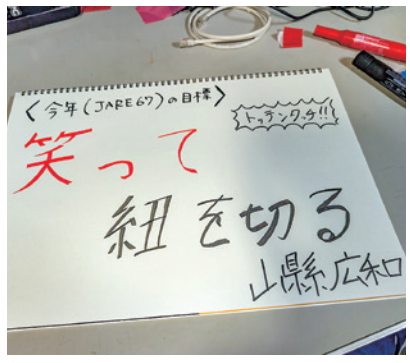
国費が投じられる観測隊には可能な範囲で広報活動への協力が求められる。私は本学への移籍直後ということもあり、積極的な参加を心がけた。そのインタビューの中で、自律型水中ロボットの南極観測における難しさとして「トラブルに見舞われたら帰って来ることができず、その原因を調べることも難しい」という話をしたが、まさかそれが伏線となるとは当時誰も考えていなかっただろう。


押し寄せてきた海氷の一部




（左）MONACA機体　（右）無索投入されたMONACA、これを最後に行方不明になる

15日午前、MONACAは有索運用テストを実施した。機体については当初予定通りの動作が確認できたために、午後に無索化することとなった。昼食には時間が取れず、おにぎりをかじりながらの準備投入となった。当時、海流は0・5ノット程度、風速も8・5m／sと高いということもなく、運用は可能と判断した。実際にMONACAは多少の通信状態の悪化もものともせず、総走行距離2kmを航行した。しかし投入から1時間後、周囲の環境が大きく変わった。運用のために砕氷船「しらせ」は右舷方向から風を受けて左舷側の氷盤に横づけしていたが、前方にあった海氷が砕けて船を覆い始めた。MONACAの浮上予定地点は想定していなかった海氷に埋め尽くされ、そのただ中に浮上することとなった。13時半頃にMONACAは浮上を開始したが、氷に近づいたことで音響による通信が困難になる。その30分後、奇跡的に通信が回復し、再度潜航して海氷を避けての浮上を狙うが動き続ける氷をよけ切れず海氷の下で擱座する。その後14時42分にとらえた最後の通信ののちMONACAの現在位置は不明となった。



前日の放送で出したフリップ



隊員が握ってくれたおにぎり

目視や音響を用いて日没まで懸命な捜索を行ったものの発見には至らず、その日の捜索は中断された。翌日、朝から別の観測を予定していた「しらせ」は朝の捜索のちに喪失点を離脱した。私と副オペレータは午後に頂いた捜索時間を有効に使うためにMONACAがいるであろう位置の推定を行い、午後の捜索に備えた。その結果、捜索可能な範囲を推定できたので、他の隊員から「こんなに狭い範囲ならきっと見つかる」と温かい慰めをもらいながら海域に向かった。しかし、ついた喪失点には昨日まであったはずの海氷がなかった。気象と海流ですべて流されていたのである。この時点で我々が持っているデータから捜索位置を割り出すことが実質的に不可能となった。

次回ではMONACA捜索とその後の活動ついて触れていく。


山縣広和准教授（ロボティクス学科）

令和8年度高等学校DX加速化推進事業
DXハイスクール
支援プロジェクト
専門学科教員によるDX関連科目の出前授業
「探究的な学び」「情報II」の充実、教員向け研修
長年にわたり蓄積してきた高大連携教育に関する経験をDXハイスクール採択校の支援に活用。将来のデジタル分野を支える人材育成に貢献します!!
詳細・お申込み

クリスマス
オープンキャンパス
工学ワークショップ、進路相談、キャンパスツアー など
一般選抜向け
入試対策講座
一般選抜の出題傾向を把握できる対策講座を実施
12月6日（日）同時開催

まだまだ間に合う年内合格！2027年度入試日程

［基幹工学部］機械工学科・電気情報工学科・環境生命化学科　［建築学部］建築学科（建築コース／生活環境デザインコース）
［先進工学部］ロボティクス学科・情報メディアデザイン学科・データサイエンス学科

入試種別	出願期間	試験日と試験会場	合格発表日
総合型選抜（基礎学力型）	9/28(月)～11/9(月)	11/14(土) 本学	12/1(火)
総合型選抜（体験講義型）第2期	11/11(水)～12/8(火)	12/12(土) 本学	12/18(金)
総合型選抜（活動アピール型）第2期	12/10(木)～1/19(火)	1/29(金) 本学	2/8(月)
外国人留学生入試（指定校）第2期	12/10(木)～1/19(火)	1/29(金) 本学	2/8(月)
学校推薦型選抜（指定校）	11/2(月)～11/9(月) web受付開始 10/23(金)	11/15(日) 本学	12/1(火)

入試種別	出願期間	試験日と試験会場	合格発表日
学校推薦型選抜（公募制）第1期	11/2(月)～11/9(月) web受付開始 10/23(金)	11/14(土) 本学	12/1(火)
学校推薦型選抜（公募制）第2期	11/11(水)～12/8(火)	12/12(土) 本学	12/18(金)
外国人留学生入試（公募制）第2期	10/5(月)～11/9(月)	11/14(土) 本学	12/1(火)
外国人留学生入試（公募制）第3期	12/10(木)～1/19(火)	1/29(金) 本学	2/8(月)
外国人留学生入試（公募制）第4期	1/21(木)～2/25(木)	3/5(金) 本学	3/12(金)

※　全ての入試において、インターネットからの出願です。
本学HPからアクセスしてください。
※　各入試の詳細は、それぞれの「募集要項」を確認してください。

【年明け入試のお知らせ】
一般選抜A・共通テスト利用A
WEB受付　12/10(木)よりスタート！
詳細は、受験生サイトよりご確認ください。

https://juken.nit.ac.jp/

お問い合せ先
入試課　電話：0120-250-267
留学生入試課　電話：0480-33-7547

日本工業大学大学院 一般入学試験・社会人特別選抜

◆大学院工学研究科
（博士前期課程・博士後期課程）

■2027年度　入試日程

	日程			
	出願期間	試験日	合格発表	手続締切
Ⅱ期	2027年1月29日～2月4日	2月10日	2月15日	3月5日

お問合せ先：教務部教務課　大学院入試係
TEL 0480-33-7507　E-mail：kyomu@nit.ac.jp

第40回日本工業大学建築設計競技

全国から29校61作品「家族構成にとらわれない家」

【審査委員長の講評】

今日の日本の大部分の住宅は、nLDKと言われる間取り形式を採用しています。建物の空間構成が家族構成と強く関連し、その結びつきが生活や活動に制度的とも言えるほどの強い拘束を与えています。こうした現実を前に、皆さんがどのような対策を示すか、考えてほしいと思いました。応募作品の多くは、この課題意図を的確に捉えていたことに安堵し、共感が持てました。なかでも入賞作品は「家族構成による家」の今日的状況を相対化し、豊かな構想の結果を示してくれました。こうした提案が、今後の住宅のあり方を考えるきっかけになることを願っています。

坂本一成
（建築家/アトリエ・アンド・アイ 坂本一成研究室主宰）



入賞者

○印は共同作品の代表者

審査結果	氏名	学校名
1等	森　梨紗	愛知県立一宮工科高等学校
2等	○山中　颯汰 鈴木　陽太	茨城県立つくばサイエンス高等学校
3等	伊藤　光希	愛知県立愛知総合工科高等学校
審査員賞	松岡　遼河	神戸市立科学技術高等学校
審査員賞	○九里　敏生 髙澤　昊輝	富山県立富山工業高等学校
審査員賞	○小出　千智 小田　朕誠 渡辺　陽真	大分県立大分工業高等学校
佳作	竹田　佳裕	神戸市立科学技術高等学校
佳作	堀籠　倖也	仙台市立仙台工業高等学校
佳作	大坊　春輝	青森県立八戸工業高等学校
佳作	○山田　まい 宮本　杏奈 坂口　亮太	広島市立広島工業高等学校
佳作	桐原　優奈	三重県立伊勢工業高等学校
佳作	福本　優介	愛知県立愛知総合工科高等学校
佳作	小塩　菜央	大分県立大分工業高等学校
奨励賞	駒牧　暖大	岡山県立津山工業高等学校

審査結果	氏名	学校名
奨励賞	歌房　玖音	兵庫県立龍野北高等学校
奨励賞	齋藤　凛空	栃木県立宇都宮工業高等学校
奨励賞	鈴木　卓	静岡県立天竜高等学校
奨励賞	加川　結海	埼玉県立春日部工業高等学校
奨励賞	長友　咲結	埼玉県立熊谷工業高等学校
奨励賞	藤林　統介	神戸市立科学技術高等学校
奨励賞	肥田野　凛葵	神戸市立科学技術高等学校
奨励賞	夏坂　心智	青森県立八戸工業高等学校
奨励賞	○宮本　杏奈 山田　まい 坂口　亮太	広島市立広島工業高等学校
奨励賞	○江口　悠太 梶本　晴生	広島市立広島工業高等学校
奨励賞	堀江　逸希	大分県立鶴崎工業高等学校
奨励賞	○末吉　桧虎 喜屋武　綾斗 知念　優輝	沖縄県立沖縄工業高等学校
奨励賞	神代　愛里	国立明石工業高等専門学校

奨励学校賞	岡山県立津山工業高等学校

NITプロダクトデザインコンテスト2026

個性あふれる、創造力豊かな作品が集結



オリジナルアイデア部門優秀賞「Notifi」



3Dプリンタ造形部門優秀賞「カバのティッシュカバー」

高校生を対象としたプロダクト（工業製品）デザインのコンテスト。

今年の募集テーマはオリジナルアイデア部門が「気分を上げるプロダクト」、CADデータで応募する3Dモデリング部門が「動く機構をもったプロダクト」、3Dプリンタ造形部門が「おもしろい形のオブジェ」であった。このほか自由部門では、他部門に当てはまらない自由な発想の作品を募集。全部門合わせて、全国の高校から個性あふれる96作品が集まった。

厳正な審査の結果、各部門の受賞者を決定。賞状と賞品を送付した。

審査結果

各賞	氏名	高校名
オリジナルアイデア部門		
優秀賞	山路 唯純	角川ドワンゴ学園N高等学校
佳作	西田 あかね	栃木県立足利工業高等学校
自由部門		
特別賞	大平 暁輝 興末 也飛 伊藤 大吾 伊藤 美帆 梅田 煌汰 冨岡 琉雫	埼玉県立上尾南高等学校
佳作	大井 聖絆	茨城県立つくばサイエンス高等学校
佳作	櫻庭 歩純	開智望中等教育学校
佳作	山田 まどか 飯野 巧己 鈴木 翔	宮城県工業高等学校
佳作	松野 健之介	千葉県立磯辺高等学校

各賞	氏名	高校名
3Dプリンタ造形部門		
優秀賞	曽我 俊介	愛媛県立新居浜工業高等学校
佳作	堀井 弘之助	埼玉県立春日部工業高等学校
佳作	東原 侑希 伊藤 響	長野県岡谷工業高等学校
佳作	難波 美帆	兵庫県立兵庫工業高等学校
3Dモデリング部門		
特別賞	大内 瑛仁枝	開智望中等教育学校
佳作	西山 翠	東京都立六郷工科高等学校
佳作	渡邉 璃子	東京都立六郷工科高等学校

各賞	高校名
学校奨励賞	愛媛県立新居浜工業高等学校
	埼玉県立久喜工業高等学校
	埼玉県立三郷工業技術高等学校
	三重県立亀山高等学校
	島根県立松江工業高等学校

第一線の実業家が講師
15年目の寄附講座



（左より）竹内学長、飯田理事長

9月4日、川口信用金庫（埼玉県川口市）による寄附講座「創業の基礎」の贈呈式が行われ、同金庫の飯田理事長より竹内学長へ目録が贈られた。

本講座は今年で15年目となり、9月29日より14回の授業で構成される。講師は同金庫職員や第一線で活躍する実業家が務め、公的金融機関による操業施策、実業家自身の起業体験や創業のポイントなどを紹介。金融機関ならではの視点を盛り込み、将来の創業・新事業企画に役立つ実践的な知識が修得できる。起業を目指す学生に人気で、昨年度は定員30名を超える34名が受講した。

寄贈された地元のお米を
学生支援として活用



宮代社協の皆さんが学生支援課にお米を寄贈

埼玉キャンパスが所在する宮代町では農業が推進されており、米づくりも盛んに行われている。このうち一部の米農家の方々が毎年、経済的に困窮している町民の援助のため、宮代町社会福祉協議会にお米を寄贈している。

7月7日、その一部となる約540㌔のお米が同協議会から本学に寄贈された。このお米は学生支援の一環として、主に一人暮らしをしている学生に配布された。また、「100円朝食」用としても利用されており、学生たちの食生活改善にも寄与している。

体育館の有効活用により
地域のスポーツ振興に貢献

天満宮奉納 少年剣道大会



埼玉キャンパスの一角に鎮座する天満宮の奉納行事として毎年開催。今年は7月18日、地元の宮代剣友会、杉戸西剣友会など近隣4団体の小学生53名が参加した。

少年・少女剣士たちは天満宮に参拝したあと試合会場の体育館へ移動。冷房の効いた快適な環境の中、元気な掛け声を響かせ、熱戦を繰り広げた。低学年児童が着慣れない剣道着に身を包み、一生懸命試合に臨む姿が特に印象的であった。

第2回学長杯 バスケットボール大会



本学と連携協定を締結している高等学校の活動支援の一環として7月29日に開催。埼玉県内および近県の6校（左記）が参加し、日頃の練習の成果を競い合った。結果、水戸工業高等学校が優勝し、竹内学長が学長杯（NITCUP）を授与した。

今年は体育館外壁の遮熱塗装による効果で、館内は昨年より快適な状態を維持した。

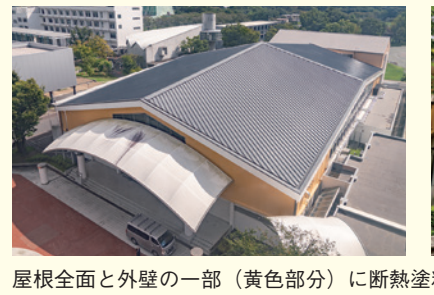
参加校＝埼玉県立白岡高等学校、埼玉県立蓮田松韻高等学校、埼玉県立杉戸高等学校、栃木県立小山高等学校、栃木県立那須清峰高等学校、茨城県立水戸工業高等学校

体育館遮熱塗料敷設工事（R8年度後援会特別事業）

太陽光を反射し、冷房効果を活かす

2024年度に体育館に冷暖房設備が導入され、とりわけ夏季における快適性が向上した。しかし猛暑は年々厳しさを増し、特に晴天時の午後には想定を超えて館内温度が上昇し、活動に支障をきたしていた。

この問題を緩和するために今夏、後援会特別事業として外壁の一部と屋根に遮熱塗料を塗布した。フライパンでお馴染みのテフロンの塗料で既存の鋼板部分をコーティングし、太陽光を反射して熱伝導を防ぎ、館内の温度上昇を抑える仕組みである。今回の工事によって館内の体感温度は大幅に下がり「かなり快適になった」と学生にも好評である。





屋根全面と外壁の一部（黄色部分）に断熱塗料を塗布した

専門職大学院だより

ロボット化で考えたいこと

大学院技術経営研究科・教授　小井川明良

2026年8月22日から北京で、ロボットの運動会、世界人型ロボットスポーツ大会（World Humanoid Robot Games、世界人形機器人運動会）が開催されました。9割が中国の企業、研究機関ですが、米国、ドイツ、日本、ブラジル等からも参加がありました。ロボットが100mの世界記録を奪った後、壁に衝突、壊れる等の笑えるハプニングもありましたが、遠隔操作のない、自律制御であることに驚かされました。ロボット自身が判断、制御、目的の動きの実現を可能にしました。

こうした事実を目の当たりにすると、ロボットが人間を超えてしまい、人間が不要になるのではないかという話に発展していきますが、当大学院の「技術経営」の視点から見ると、寧ろ逆に感じます。

技術としては、ロボットが人より速く走れるのはそれほど難しくなく、人型の脚ではなく、タイヤにした方が更に安定的に速く走れます。四足でも良いかもしれません。こうなると、人間は、ロボットに全く歯が立ちません。

経営の視点で見るとロボットはひとつの動作に特化しており、他の動作は苦手です。技術進歩で他動作も可能になるが、制御システムも複雑になり、その動作に見合った可動域を確保し、動力を小型化、摺動性を高めて過熱を防ぎ、長時間稼働の為に省エネ化も考えないといけません。コスト面でも、金属を精密加工するのでちょっとした故障でも莫大な修理費が掛かります。人間であれば、擦り傷なら、ご飯を食べて、ゆっくり休めば、働くことが出来ます。すごく低コストです。また、人間は作業だけでなく、考え、多種多様な仕事をこなせます。

京都に村田機械という優良企業があります。創業者である村田禎介は、早くから機械の利便性を理解し、「機械にできる仕事は機械に任せ、人は人にしかできない仕事をする」という経営理念を掲げ、1960年代には、工場作業者の負担軽減の為、ファクトリーオートメーションの設備を開発しました。同社のロゴマークのMの中には、機械と人の楽しそうに、協業する姿が描かれております。

技術進歩が更に進む中で、新しい視点で技術と経営を深く考えてみたい方は、是非、日本工業大学専門職大学院技術経営研究科での学びをご検討いただければ幸いです。

専門職大学院オープンキャンパス
2026 11/28(土)　2027 1/23(土)
説明会、パネルディスカッション
模擬授業等を実施予定
※日程、内容を変更する場合があります。最新情報はWEBサイトで
TEL. 03-3511-7591　mot@kanda.nit.ac.jp

夏休みの子供向け体験教室

本学では毎年の夏休み期間中、近隣の児童・生徒と保護者を対象として、ものづくりや実験が体験できる各種イベントを開催している。今夏も科学やものづくりの魅力を体験できる多彩なプログラムを用意し、教員や学生が指導にあたった。各イベントとも定員を上回る盛況ぶりであった。


親子ものづくり教室


児童館コスモスの体験イベント

イベント名称	主な内容	実施日	参加数
スチューデントラボ 中学生科学教室	体験で理解する中学生の電気 ～電流・磁界と単極モータの工作	7/25(土)	11名
スチューデントラボ 親子ものづくり教室	二足歩行ロボット、LED光ファイバーアート製作など5テーマ	8/1(土)	52組104名
加須市少年少女発明クラブ ロボット工作教室	自由自在に動く機械！ ロボットを思い通りに動かそう	8/5(水)	30名
関東地区リフレッシュ理科教室（埼玉会場）	手で持っても回り続けるふしぎなコマを作ろう／面白理科実験	8/22(土)	36名
越谷市児童館コスモス体験イベント	インタラクティブアート・ゲームの体験	8/1(土)、2(日)	233名

第59期決算・第60期予算

財務状況報告

一・はじめに

第59期決算、第60期予算が監査法人および法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されたため、ここに財務諸表をお知らせし、関係各位のご理解と引き続きのご協力、ご支援をお願いしたい。

2025年度に本学が行った主な事業等は次の通り。

○周年記念事業の一環で本館の教室改修や大型ディスプレイ等の導入を実施。また、前年度に続き空調設備を更新した。

○次世代農業技術を創出する研究拠点となる「スマート農業センター」の施設設備を整備した。

二・2025年度決算について

学校法人会計基準に基づく主たる財務諸表について説明する。「貸借対照表」（別表1）は、年度末における財務状況を明らかにしたものである。「事業活動収支計算書」（別表2）は、大学の経営状態を明らかにしたものである（詳細後述）。「資金収支計算書」（別表3）は、当該年度の教育研究等の諸活動に対するすべての収入と支出の内容及び支払資金（現預金）のてん末を明らかにしたものである。

「事業活動収支計算書」（別表2）詳細

事業活動収支計算書は、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の3つの活動に区分され、それぞれの区分毎に収支バランスを示すことによって、経営状態を明らかにしている。

●教育活動収支

大学の教育活動に係る収支状況を表す教育活動収支差額は6億900万円の支出超過となった。その要因は、業務委託費の増加と高等教育の修学支援新制度に伴う奨学費の大幅な増加である。収支の主な内訳は、学生生徒等納付金は54億4600万円、手数料は820万円、経常費等補助金等は9億9600万円。人件費は32億7500万円、教育研究経費は35億1200万円、管理経費は7億2600万円となった。

●教育活動外収支

財務活動などの教育活動以外の経常的な活動に係る収支状況を表す教育活動外収支差額は、金利上昇と円安による為替差益が発生し、2億2300万円の収入超過となった。

●特別収支

経常的な活動以外の臨時的な活動に係る収支状況を表す特別収支差額は会計基準改正による賞与引当金繰入額の計上により、2億6500万円の支出超過となった。

○総括

結果、事業活動収入（別表2①②③の収入計）は74億2800万円、事業活動支出（別表2④⑤⑥の支出計）は80億7900万円。差額である基本金組入前当年度収支差額は、6億5100万円の支出超過となった。ここから学校法人の諸活動を永続的に維持するための基本金組入額4億4700万円を差し引いた当年度収支差額は10億9800万円の支出超過となった。

（別表5財務関係比率を参照）

三・2026年度予算について「資金収支予算書」（別表4）

2026年度予算は、支出の部では、来年に迎える大学設立60周年に向けた事業に取り組むための支出と業務委託費の増加を考慮した予算とした。収入の部では、第2号基本金および施設・設備の特定資産の取崩しを想定し、前年度比増となる予算を計画した。

四・むすび

本学は来年2027年に学園創立120周年・大学設立60周年の節目を迎える。これを機に学生がより充実した環境で学修できる施設設備を整備するとともに、中長期計画に基づくアクションプランの実行に努めていく所存。

一方、2026年度入学者数は定員を大きく上回ったものの、近年の18歳人口減少に伴い、今後の学納金収入は厳しい予測を強いられている。本学の教育・研究活動をさらに発展させていくためにはより一層、関係各位のご理解とご協力が不可欠である。引き続きご支援を賜りたく、よろしくお取り計らいいただきたい。（財務部）

（別表1）貸借対照表　　単位：千円

資産の部			
科目	2025（R7）	2024（R6）	増減
固定資産	45,805,591	46,238,402	△ 432,811
有形固定資産	20,329,754	20,484,165	△ 154,411
特定資産	25,412,646	25,665,770	△ 253,124
その他の固定資産	63,191	88,467	△ 25,276
流動資産	4,590,260	5,028,863	△ 438,603
合　計	50,395,852	51,267,265	△ 871,414

負債の部			
科目	2025（R7）	2024（R6）	増減
固定負債	3,604,660	3,844,156	△ 239,495
流動負債	3,097,602	3,078,393	19,209
合　計	6,702,262	6,922,549	△ 220,287

純資産の部			
科目	2025（R7）	2024（R6）	増減
基本金	47,509,561	47,062,962	446,599
翌年度繰越収支差額	△ 3,815,972	△ 2,718,246	△ 1,097,726
合　計	43,693,589	44,344,716	△ 651,127
負債及び純資産の部合計	50,395,852	51,267,265	△ 871,414

（別表2）事業活動収支計算書　　単位：千円

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	5,426,460	5,445,702	△ 19,242
		手数料	71,100	82,201	△ 11,101
		寄付金	52,600	67,540	△ 14,940
		経常費等補助金	1,024,000	995,667	28,333
		付随事業収入	57,775	154,564	△ 96,789
		雑収入	175,165	159,644	15,521
		教育活動収入計 ①	6,807,100	6,905,318	△ 98,218
	支出の部	科目	予算	決算	差異
		人件費	3,340,249	3,275,230	65,019
		教育研究経費	3,642,663	3,512,489	130,174
		管理経費	822,127	726,374	95,753
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計 ④	7,805,039	7,514,092	290,947
	教育活動収支差額		△ 997,939	△ 608,774	△ 389,165
教育活動外収支	収入の部	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	110,400	250,456	△ 140,056
		その他の教育活動外収入	0	233,544	△ 233,544
		教育活動外収入計 ②	110,400	484,000	△ 373,600
	支出の部	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	17,989	17,988	1
		その他の教育活動外支出	242,180	242,909	△ 729
		教育活動外支出計 ⑤	260,169	260,897	△ 728
	教育活動外収支差額		△ 149,769	223,103	△ 372,872
経常収支差額			△ 1,147,708	△ 385,671	△ 762,037
特別収支	収入の部	科目	予算	決算	差異
		資産売却額	0	0	0
		その他の特別収入	40,000	38,398	1,602
		特別収入計 ③	40,000	38,398	1,602
	支出の部	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	177,000	83,341	93,659
		その他の特別支出	220,000	220,513	△ 513
		特別支出計 ⑥	397,000	303,854	93,146
	特別収支差額		△ 357,000	△ 265,456	△ 91,544
〔予備費〕			100,000	0	100,000
基本金組入前当年度収支差額			△ 1,604,708	△ 651,127	△ 953,581
基本金組入額合計			△ 465,000	△ 446,599	△ 18,401
当年度収支差額			△ 2,069,708	△ 1,097,726	△ 971,982
前年度繰越収支差額			△ 2,718,246	△ 2,718,246	0
基本金取崩額			0	0	0
翌年度繰越収支差額			△ 4,787,954	△ 3,815,972	△ 971,982
（参考）					
事業活動収入計			6,957,500	7,427,716	△ 470,216
事業活動支出計			8,562,208	8,078,843	483,365
経常収入（教育活動収入計＋教育活動外収入計）			6,917,500	7,389,318	△ 471,818

※注：千円単位等で表示する際に単位未満を四捨五入しているため、端数調整のための差異が生じる場合があります。

（別表3）資金収支計算書　　単位：千円

科目	予算	決算	差異
収入の部			
学生生徒等納付金収入	5,426,460	5,445,702	△ 19,242
手数料収入	71,100	82,201	△ 11,101
寄付金収入	72,600	93,400	△ 20,800
補助金収入	1,024,000	995,667	28,333
付随事業・収益事業収入	57,775	154,564	△ 96,789
受取利息・配当金収入	110,400	247,653	△ 137,253
資産売却収入	0	0	0
雑収入	175,165	393,071	△ 217,906
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,845,463	1,876,652	△ 31,189
その他の収入	1,775,165	1,189,385	585,779
資金収入調整勘定	△ 2,019,136	△ 2,175,579	156,444
前年度繰越支払資金	4,858,594	4,858,594	0
収入の部合計	13,397,586	13,161,310	236,276
支出の部			
人件費支出	3,330,078	3,244,479	85,599
教育研究費支出	2,487,663	2,486,924	739
管理経費支出	722,127	619,805	102,322
借入金等利息支出	17,989	17,988	1
借入金等返済支出	307,200	307,200	0
施設関係支出	1,501,850	784,937	716,913
設備関係支出	239,014	234,545	4,469
資産運用支出	265,000	784,034	△ 519,034
その他の支出	413,837	448,777	△ 34,940
予備費	5,000		5,000
資金支出調整勘定	△ 38,849	△ 183,439	144,590
翌年度繰越支払資金	4,146,677	4,416,060	△ 269,382
支出の部合計	13,397,586	13,161,310	236,276

（別表4）資金収支予算書　　単位：千円

科目	2026（R8）	2025（R7）	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	5,495,146	5,426,460	68,686
手数料収入	71,550	71,100	450
寄付金収入	127,485	72,600	54,885
補助金収入	983,000	1,024,000	△ 41,000
付随事業・収益事業収入	79,780	57,775	22,005
受取利息・配当金収入	165,400	110,400	55,000
資産売却収入	0	0	0
雑収入	101,989	175,165	△ 73,176
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,866,020	1,845,463	20,557
その他の収入	2,367,481	1,775,165	592,316
資金収入調整勘定	△ 1,876,652	△ 2,019,136	142,484
前年度繰越支払資金	4,416,060	4,858,594	△ 442,535
収入の部合計	13,797,259	13,397,586	399,672

科目	2026（R8）	2025（R7）	増減
支出の部			
人件費支出	3,294,594	3,330,078	△ 35,484
教育研究費支出	2,821,665	2,487,663	334,002
管理経費支出	835,180	722,127	113,053
借入金等利息支出	15,450	17,989	△ 2,539
借入金等返済支出	266,100	307,200	△ 41,100
施設関係支出	1,258,963	1,501,850	△ 242,887
設備関係支出	740,668	239,014	501,654
資産運用支出	300,990	265,000	35,990
その他の支出	389,360	413,837	△ 24,477
〔予備費〕	100,000	5,000	95,000
資金支出調整勘定	△ 24,675	△ 38,849	14,174
翌年度繰越支払資金	3,798,964	4,146,677	△ 347,713
支出の部合計	13,797,259	13,397,586	399,672

（別表5）事業活動収支計算書の主要項目の分析表

主要項目の分析比率（%）	2025（R7）	2024（R6）	増減
補助金/事業活動収入	13.4%	9.9%	3.5%
人件費/経常収入	44.3%	47.6%	-3.3%
教育研究経費/経常収入	47.5%	44.9%	2.6%
管理経費/経常収入	9.8%	11.6%	-1.8%
借入金等利息/経常収入	0.2%	0.3%	-0.1%
人件費/学生生徒等納付金	60.1%	60.0%	0.1%

第54回夏祭りを開催

神輿巡行に地元の太鼓保存会が参加

学生自治会の体育会本部が主催する『第54回夏祭り』が8月1日～2日に開催された。

毎年恒例の盆踊りや抽選会、各種露店に加え、昨年に引続き「神輿巡行」を実施。また、宮代町より「宮代進修太鼓保存会太鼓集団“風”」も参加し、神輿巡行に合わせ、太鼓を演奏。夏祭りを大いに盛り上げた。

夏祭りのフィナーレを飾ったのは、打ち上げ花火。本学の夏の風物詩である「日工大夏祭り」に彩を添えた。


神輿巡行


抽選会

日本塑性加工学会 論文賞

機械工学科の瀧澤英男教授が6月11日、日本塑性加工学会の論文賞を2件受賞した。

1件目の論文題目は「アルミニウム製伝熱管の引抜き～ねじり複合加工の変形挙動に関する考察」。MAアルミニウム㈱との共著論文である。螺旋状の内面溝付きアルミニウム管を成形する方法の力学的考察を担当した。

2件目の論文題目は「異方性主軸と主応力軸が異なる十字形二軸引張試験の数値解析的検証」。瀧澤研究室所属の大学院生の波多野滉也さん（2024年3月博士前期課程修了）が進めた研究であり、主軸間差角を持つ十字形の二軸引張試験を有限要素法を用いて解析した。


受賞メダル

プラスチック成形加工学会 優秀学生ポスター賞

機械システム工学専攻博士前期課程2年（村田研究室）の鴨下朋留さんが6月24日、25日に開催された一般社団法人プラスチック成形加工学会第37回年次大会（成形加工2026）において優秀学生ポスター賞を受賞した。受賞講演論文名は「金型内センサデータを用いたデータ駆動型樹脂粘度モデルの開発Ⅱ」。

本研究では、新たに設計・製作した樹脂圧力・温度計測用射出成形金型による計測データと機械学習を用いて、樹脂の製造ロット間における分子量分布のばらつきや成形工程における熱履歴に起因するばらつきなどを考慮した、従来にない革新的なデータ駆動型樹脂粘度モデルを開発した。

将来的に本モデルを射出成形CAE（コンピュータを利用して製品の設計・開発を支援するシステムや技術）に適用できれば、CAEの利用範囲が広がる可能性があると期待されている。



エレクトロニクス実装学会 奨励賞

電気電子通信工学科4年（大田研究室）の学生2名が6月22日、エレクトロニクス実装学会の高周波エレクトロニクス実装技術研究会2026年度第1回公開研究会において回路・実装設計技術委員会奨励賞を受賞した。

両研究は産業技術総合研究所との共同研究として行われたもので、ウェアデバイス技術を活用した人の動作や発話の認識に関する研究成果が高く評価された。

鈴木脩斗さんの受賞論文題目は「アームカバー型伸縮センサによる手部及び前腕動作の識別可能性の検証」。手や腕の動きを計測できるアームカバー型センサを用いた研究で、布そのものがセンサとなるウェアデバイス技術を活用している。装着時の負担が少なく自然な動作計測が可能である点、楽器演奏の上達支援、リハビリやスポーツ分野などへ応用される可能性があるとして評価された。

吉實拓耶さんの受賞論文題目は「複数の高感度な伸縮センサの組み合わせによる日本語の母音認識の検討」。声を出さずに言葉を認識する技術に関する研究であり、マスク型およびネックウォーマー型のウェアデバイスを用いて発話動作を計測し、母音を推定する新たな手法としての可能性が評価された。


（左より）吉實さん、鈴木さん

電子情報通信学会 奨励賞

電気情報工学科の小原翔馬助教が6月13日、電子情報通信学会の2026年電子情報通信学会NOLTAソサイエティ大会において非線形問題研究会奨励賞を受賞した。受賞論文題目は「光電気リザーバコンピューティングにおける遅延フィードバックが記憶容量に与える影響」。

リザーバコンピューティングは高速な学習が可能な点や物理実装との相性の良さから、近年注目されている機械学習手法。性能良くタスクを処理するためにはリザーバが有する記憶容量が重要な性質となるが、物理的に記憶容量を増加させるためには計算量が増大するという課題がある。

本研究では光学的特性を活用して、計算量を増やすことなく記憶の能力を飛躍的に向上させた点が評価された。今後、リザーバコンピューティングをはじめとする機械学習の物理実装に向けた設計指針や、より記憶が重視されるタスクへの性能向上が期待される。



日本塑性加工学会 匠賞

機械工学科の松澤正明講師（非常勤）が6月11日、日本塑性加工学会の匠賞（多年）を受賞した。受賞論文題目は「プレス部品の研磨技術開発と技能伝承」。

本研究では、複数工程で行っていたプレス加工を1工程にするといった開発を行っている。バフ研磨技術のデジタル化、見える化にも貢献しており、技能伝承の新たなモデルとして塑性加工の技能分野にも応用可能な、貴重な事例となっている。

「見よう見まね」で伝承されてきた研磨技術伝承をDX研磨伝承へ移行する一つの手段として提案することで、実践可能な環境及びシステムの提供を目指している。



日工大川柳表彰式

学生生活の想いを川柳で自由に表現

7月8日、「令和8年度日工大川柳～春学期の部～」表彰式が5号館1階において開催された。

この「日工大川柳」は、大学や学生生活への想いを自由に表現する事を目的に、学生生活向上委員会が春学期と秋学期にそれぞれ実施している企画である。

表彰式には学長や学生自治会各委員会委員長が出席し、受賞者への豪華景品贈呈や記念撮影等が行われた。

中﨑学生生活向上委員会委員長は「日工大川柳に多数の応募があり、学生の率直な意見や日々の思いが綴られた作品も見られた。これら学生の声を学生生活の充実に向けた今後の委員会活動に活かしたい」と語った。



学長賞
やる気とは 観測したら 消える粒
Aiba 雅紀

学生支援部長賞
五月雨に やる気も溶ける 月曜日
ハマサキ

中央執行委員会賞
連休前 出会った友達 いずこかな
限界建築学生A

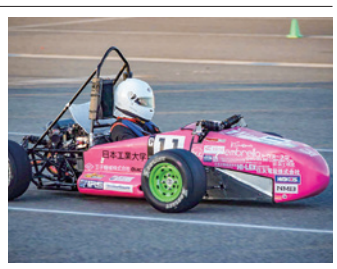
学生生活向上委員会賞
友たちは 黒髪戻し 就活期
プログラミング嫌いな学生

学生フォーミュラ日本大会に参戦

省エネ賞2位、総合成績9位と健闘

学生主体で小型レーシングカーの企画・開発・製作を行うフォーミュラ工房は8月2日から6日間、Aichi Sky Expo（愛知県常滑市）で開催された第24回学生フォーミュラ日本大会に参戦した。例年より約1カ月前倒しの日程の中、車両の調整やトラブル対応に追われたが、チーム一丸となって車両を仕上げた。

こうして万全の状態で各種審査及び走行競技会に挑んだ結果、通算11回目となる全種目完遂、完走を達成。総合成績9位、省エネ賞2位、ベスト車検賞3位と健闘した。



NIT SDGs PRESS

宮代町と連携 町民まつりに参加

学生環境推進委員会は、8月22日・23日に開催された宮代町民まつりに参加し、安全美化委員会と子供たちを対象とした工作体験を通じて、地域の環境意識向上に貢献する取り組みを行った。美化委員としてごみ回収と分別を行ったほか、夜間照明の設営にも協力した。子供向け工作では、廃棄物のペットボトル風鈴づくりを実施し、循環型社会の重要性を楽しみながら学ぶ機会を提供した。本学は今後も地域と連携し、環境活動を推進するとともに地域交流を深化させていく。


ペットボトル風鈴工作

宮代町より だより 262号

食品ロス削減推進キャンペーン開催中！

食品ロス削減の意識啓発のため、11月15日までキャンペーンを実施しています。

対象店舗で販売期限の迫った商品の購入や、飲食店等で食品ロス削減につながる取り組みを行い、キャンペーンシールを集めて応募すると抽選で宮代町ご当地商品券「ありがとう」千円分が当たります。キャンペーンを通じて、一緒に食べ物の大切さを考えてみませんか？

■シール配布＝11月15日まで■応募期間＝11月23日まで■問合＝環境資源課資源循環担当 0480-34-1111

